

- R4年8月県北豪雨災害（最大24時間雨量567mm）により、村内の家屋や生活基盤（ライフライン）はもちろんのこと、森林・農地等においても各所で山腹崩壊・土砂流出（流木）等の被害を受けました。
- 森林整備の基盤となる路網等の被災により今後の森林整備（管理）に支障をきたしていることから、早期の復興のため、倒木・流木（危険木）の処理や、森林に関連するアクセス道（森林作業道）等の小規模被災箇所限定して、緊急的に森林整備と一体的に原形復旧することで、森林環境の回復に関係者の協力の下実施しました。

事業内容

関川村森林環境復興対策事業（業務委託）

- ・ アクセス道（森林作業道）等復旧
- ・ 倒木・流木（危険木）等処理

【事業費】 6,000千円（うち譲与税5,999千円）

【実績】 アクセス道（森林作業道）等復旧 5路線 L=1,150m
倒木・流木（危険木）等処理 4地区

取組の背景

森林整備を進める上で障害となる小規模な法面崩壊、路肩決壊の復旧（補修・修繕）、倒木・流木（危険木）の処理を行うことで、森林整備が円滑に行える必要最小限の条件整備により、地域の森林環境を回復することを目的とする。



（高田地内）

（桂地内）

（上関地内）

工夫・留意した点

- ・ 林業事業体と異業種（建設業）の連携
- ・ 倒木・流木（危険木）等処理については森林所有者の同意
- ・ 関係者（集落）の調整

取組の効果

- ・ 被災した森林の早期復興により森林整備の促進
- ・ 林業事業体等の持続的な森林管理に寄与
- ・ 森林環境整備への活用
- ・ 森林整備計画づくりの促進

基礎データ

①令和4年度譲与額：10,974千円	②私有林人工林面積（※1）：2,316ha	
③林野率（※1）：74.3%	④人口（※2）：5,144人	⑤林業就業者数（※2）：22人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 地域の持続的な森林管理（整備）には、人材の育成・確保が重要な課題である。林業の職場環境は、現場作業の厳しさや事故も多く、加えて、低賃金等により林業への就業意欲が低調であり、村内の林業事業者の労働力が不足している。また、森林所有者の林業経営への関心も低く、次世代の理解者層の拡大が望まれます。
- このことから、山林を所有しながら手入れの方法がわからない、里山の整備も自ら行いたいので森林整備の技術を学びたいなどの村民を対象に、森林・林業の基礎知識と安全な森林作業の習得など、地域の様々な担い手づくりを目的として「せきかわ山の担い手育成講座」を地元の森林組合へ委託して実施しました。

□ 事業内容

関川村林業人材育成事業（業務委託）

【事業費】 217,700円

【実績】 1回開催 受講者 8名

※2回の開催を予定していたが、8月豪雨災害により1回の開催

□ 取組の背景

森林整備の重要性を広く周知するとともに、担い手として必要な知識及び技術等の習得機会を創出することで、村民の森林に対する意識向上を期待、加えて、地域への愛着と定着を期待するもの

□ 工夫・留意した点

- ・森林組合職員のスキルアップ（企画力・教える力）
- ・実習を中心にあきのこない講座
- ・アンケートの実施（P・C・D・Aサイクル）

□ 取組の効果

- ・広報発信
 - 広報せきかわ（NO.736 8.1）
 - 森林組合だより（第18号 8.1）
- ・森林施業プランナーの活躍
- ・森林組合職員の連携強化
- ・

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：10,974千円	②私有林人工林面積（※1）：2,316ha	
③林野率（※1）：74.3%	④人口（※2）：5,144人	⑤林業就業者数（※2）：22人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



（室内講座）



（現地伐倒実習）



（ソーチェン目立て実習）



（集合写真）

- 2020東京オリンピック・パラリンピックの選手村に使用した「関川産材」の製品部材の返却を受け、その活用と公共の場における地域材の普及が必要です。
- 村ではR4年度～「道の駅関川」周辺リニューアル（大型遊具の建設：芝生広場）に取り組んでおり、PR効果の高い（村民ならず多くの人からの利用期待）「道の駅」での活用を行うため、レガシー材を使用したテーブル・ベンチ加工を村上市森林組合に業務委託により製作しました。

事業内容

オリパラレガシー材使用加工品作成業務（業務委託）

【事業費】 1,035千円

【実績】 R4 テーブル 5脚
ベンチ 21脚 木材使用量 6m³
コースター 500枚

取組の背景

人口交流拠点である「道の駅関川」（芝生広場）のリニューアルを踏まえ、関川村、関川産材を広くアピールするもの

工夫・留意した点

- ・集成材（LVL）の活用
- ・野外仕様（ガラスコーティング）
- ・端材の活用 → コースター（プレゼント用）

取組の効果

- ・8月の県北豪雨災害により、リニューアル工事（大型遊具の建設）が遅れており、完全な設置ではないものの、利用者からは木の良さを感じる声がある。
- ・部材の在庫もあることから、公共施設へのベンチの増設を検討中である。

基礎データ

①令和4年度譲与額：10,974千円

②私有林人工林面積（※1）：2,316ha

③林野率（※1）：74.3%

④人口（※2）：5,144人

⑤林業就業者数（※2）：22人

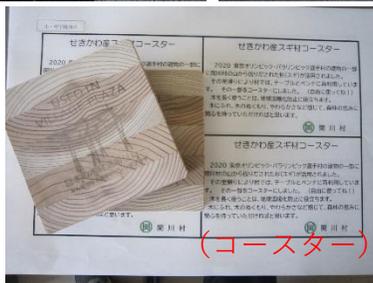
※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



（道の駅関川）



（バス停留所）



（コースター）

本製品（木製テーブル・ベンチ）は、2020東京オリンピック・パラリンピックの選手村に使用した「関川産材」の里帰りにより、「森林環境譲与税」を活用することで、新しい形に生まれ変わったものです。木材を長く使うことにより地球温暖化防止の貢献につながります。

多くの方々に、木に触れ、木の温かさや、柔らかさなど肌で感じていただき、森林の恩恵に感謝をいただければ幸いです。

（PR掲示文）

関川村